ウェブ版はこちら。データとレーティングはウェブ版の最新版を正とする
alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w42

グローバルマクロ週報 · 2026年第42週（10/12〜10/16）

KOSPIは14.5%下落、WTIは10.4%上昇、MSCI ACWIは2.0%下落
アジアの半導体株が世界株の下落を主導し、欧州株と原油は上昇、米長期債利回りは低下した

今週のMSCI ACWI（ドル建て）は1.96%下落し、下げは半導体の比重が高いアジア市場に集中した。韓国KOSPIは14.46%、日経平均は5.37%、台湾加権指数は4.47%、MSCI新興国ETFは5.91%下落した。スイスSMIは4.38%、英FTSE100は3.13%上昇した。米国の9月CPIは前年比3.7%上昇と市場予想を上回ったが、米10年債利回りは15bp低下の5.09%となった。ホルムズ海峡での船舶攻撃が増加し、WTIは10.41%高の101.41ドル、ブレントは4.91%高の109.86ドルとなった。

世界株（MSCI ACWI、ドル建て）	ユーロ圏・ストックス50	日本・日経平均	香港・ハンセン	ドル指数
-2.0%	+0.5%	-5.4%	-0.1%	101.84
終値 157.74	終値 6,204.23	終値 65,324.29	終値 24,186.83	週間 -0.37

ブレント原油
+4.9%
終値 109.86

01

今週の要点

メモリー半導体の競争とAI資金調達への懸念でアジアの半導体株が下落、KOSPIは週間で14.5%安

韓国KOSPIは週間で14.46%下落し、5668.05で引けた（10月9日は休場のため10月8日終値と比較）。10月13日のKOSPIは5.46%下落し、海外投資家の売り越しは同日約4.5兆ウォンであった。これに先立ち、長鑫存儲技術（CXMT）の総裁は4F²構造を採用したDDR5サーバー用モジュールを2026年末までに投入する計画を示し、メモリー半導体の競争激化が懸念された（Forklog）。10月15日には米インフレ指標とCoreWeave債の下落（2032年償還債は額面1ドルあたり約78セント）が重荷となり、KOSPIは7.57%安の5554.22となった。取引は一時20分間停止し、10月の海外投資家の売り越しは100億ドル

を超えた（Gulf News）。SKハイニックスは週間で24.3%、サムスン電子は17.8%下落した。
日経平均は週間で5.37%下落した（10月12日は休場）。10月15日は3318円（4.90%）安の6万4425円で、下げ幅は過去3番目の大きさとなり、TOPIXは同日2.38%下落した（QNA）。同日、アドバンテストは15.0%、キオクシアは12.3%、ソフトバンクグループは9.3%、東京エレクトロンは7.8%下落した。TSMCは市場予想を上回る四半期利益を発表したものの2.0%下落した（Heygotrade）。米フィラデルフィア半導体株指数は週間で11.4%下落し、2025年4月上旬以来の下落率となった。マイクロンは14.6%、CoreWeaveは25.2%下落した（Investing.com）。個別株の騰落率はYahoo Financeの終値による。

米9月CPIは市場予想を上回り利上げ織り込みは大きく変動、米長期債利回りは週間で低下

米国の9月CPIは前年比3.7%上昇（市場予想3.6%、8月3.4%）、コアCPIは同2.6%上昇（市場予想2.5%）となった。ガソリンは前月比9.1%上昇し、総合指数の上昇分の約半分を占めた（CNBC）。10月15日公表の9月PPIは前年比6.3%上昇、小売売上高は前月比0.8%増（市場予想0.3%増）で、ガソリンスタンドを除くと約0.2%増であった（BabyPips、Trading Economics）。CME FedWatchによる10月利上げ確率はCPI公表後に約54%まで上昇し、金曜のウォーシュFRB議長のバンコクでの発言後は約17%に低下した。前日は28%近くであった（Investing.com）。

米国債利回りは週間で低下し、イールドカーブはフラット化した。10年債は15bp低下の5.09%、30年債は17bp低下の5.43%、2年債は6bp低下の4.74%で、10年債と2年債の利回り差は44bpから35bpに縮小した。10年実質金利は17bp低下、ブレークイーブンは2bp上昇しており、利回り低下は実質金利によるもので、株安局面での安全資産需要と整合的である（推測）。他の経済でもインフレはエネルギー価格の影響を受けた。ユーロ圏の9月HICP確報は3.8%（8月3.2%）であった（Eurostat）。中国の9月PPIは前年比5.0%上昇と市場予想の4.5%を上回り（Trading Economics）、CPIは0.9%上昇であった（国家統計局）。

ホルムズ海峡での船舶攻撃増加でWTIは100ドルを回復、エネルギーとディフェンシブ銘柄が欧州株を押し上げ

金曜のWTI清算値は101.41ドルで週間10.41%上昇、ブレント清算値は109.86ドルで週間4.91%上昇し、取引時間中には5月以来となる110ドルに達した。イランは前週日曜以降、少なくとも9隻の商船を攻撃し、水曜にはコンテナ船GFS Prideを撃沈した。水曜までの1週間のホルムズ海峡の原油輸送量は日量940万バレルで、戦争前平均の約7割である。フーシ派は今週サウジアラビアに繰り返しミサイルと無人機を発射し、ロシアとウクライナのエネルギー停戦は崩壊した。米商業原油在庫は10月9日までの週に800万バレル超減少し、ハリケーンがメキシコ湾岸の生産を停止させた（CNBC）。ブレントとWTIの価格差は12.87ドルから8.45ドルに縮小し、米国の供給障害がWTIの上昇率が大きい一因である（推測）。

欧州の主要指数は上昇し、SMIは4.38%、FTSE100は3.13%、DAXは2.13%高となった。ネスレは8.4%、ロシュは4.9%、ノバルティスは4.7%、アストラゼネカは3.7%、シェルは3.8%、BPは4.7%上昇した。ロイターは金曜朝、欧州企業の好決算が株式相場を下支えしたと報じた（WHBL転載のロイター）。ユーロ・ストックス50は0.50%の上昇にとどまり、構成銘柄のASMLは7.8%下落した。

> 今週の株式市場の差は主に半導体株とエネルギー・ディフェンシブ銘柄の間の循環物色によるものであり、インフレ指標の上振れと長期金利の低下が同時に生じ、安全資産需要と利上げ観測は債券価格に逆方向に作用した（推測）。

02

世界の株式市場

週間騰落（現地通貨建て）

スイス・SMI +4.4% 年初来 +8.5%	メキシコ・IPC +4.4% 年初来 +7.2%	英国・FTSE100 +3.1% 年初来 +9.6%	インド・Nifty50 +2.8% 年初来 -11.4%	ドイツ・DAX +2.1% 年初来 +4.6%	フランス・CAC40 +2.0% 年初来 -2.4%
カナダ・TSX +1.4% 年初来 +14.1%	豪州・ASX200 +1.0% 年初来 +1.1%	ユーロ圏・ストックス50 +0.5% 年初来 +7.0%	香港・ハンセン -0.1% 年初来 -5.6%	ブラジル・ボベスパ -1.7% 年初来 +27.5%	米国・S&P500 -1.9% 年初来 +11.9%
世界株（MSCI ACWI、ドル建て） -2.0% 年初来 +12.2%	中国・上海総合 -2.6% 年初来 -6.4%	台湾・加権指数 -4.5% 年初来 +62.7%	日本・日経平均 -5.4% 年初来 +29.8%	新興国株（MSCI EM、ドル建て） -5.9% 年初来 +15.5%	韓国・KOSPI -14.5% 年初来 +34.5%

各国指数は現地通貨建て。MSCI ACWI と新興国（EEM）はドル建て ETF。

現地通貨ベースではSMI（+4.38%）、メキシコIPC（+4.36%）、FTSE100（+3.13%）が好調で、KOSPI（-14.46%）、日経平均（-5.37%）、台湾加権指数（-4.47%）が低調であった。S&P500は1.95%、上海総合指数は2.56%、ハンセン指数は0.10%下落した。韓国と台湾の週間騰落率は10月8日終値との比較であり、日本、カナダ、ブラジルは10月12日が休場である。

ドル建てに換算すると、KOSPIは約14.3%下落（ウォン0.15%高）、日経平均は約5.4%下落（円0.05%安）、Nifty50は約5.3%上昇（ルピー2.43%高）、IPCは約2.9%上昇（ペソ1.38%安）、ボベスパ指数は約3.3%下落（レアル1.55%安）、SMIは約4.8%上昇（スイスフラン0.44%高）、FTSE100は約3.5%上昇（ポンド0.33%高）となる。

インドでは株式とルピーがともに上昇したが、10月13日も海外機関投資家は売り越しであった（The Week）。

03

主要通貨の対ドル相場

対ドルの週間騰落

ルピー +2.4% 年初来 -5.0%	スイスフラン +0.4% 年初来 -4.4%	ポンド +0.3% 年初来 -1.4%	人民元 +0.2% 年初来 +4.6%	ウォン +0.2% 年初来 +7.2%	ユーロ +0.0% 年初来 -4.5%
円 -0.1% 年初来 -1.1%	豪ドル -0.6% 年初来 +3.3%	メキシコペソ -1.4% 年初来 -2.5%	レアル -1.5% 年初来 +7.4%		

プラスは当該通貨の対ドルでの上昇を示す。

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
ルピー	USD/94.52	+2.4%	-5.0%
スイスフラン	USD/0.8278	+0.4%	-4.4%
ポンド	1.3273	+0.3%	-1.4%
人民元	USD/6.6909	+0.2%	+4.6%
ウォン	USD/1,340.95	+0.2%	+7.2%
ユーロ	1.1213	+0.0%	-4.5%
円	USD/158.14	-0.1%	-1.1%
豪ドル	0.6919	-0.6%	+3.3%
メキシコペソ	USD/18.44	-1.4%	-2.5%
レアル	USD/5.0966	-1.5%	+7.4%

ドル指数は週末 101.84（-0.37）。USD/ 表記は1ドルあたりの通貨量。

主要10通貨のうち5通貨が対ドルで上昇し、ユーロは変わらず、4通貨が下落した。ドル指数は0.36%低下の101.84であった。

インドルピー（+2.43%）の上昇が最大で、94.52で引けた。インド準備銀行は国営石油会社向けの特別ドル窓口を設け、為替デリバティブの規制を強化した（The Week）。スイスフラン（+0.44%）、ポンド（+0.33%）、人民元（+0.17%）、ウォン（+0.15%）は小幅高で、ウォンは1340.95で引け、KOSPIの急落に伴う通貨安は見られなかった。ユーロは1.1213で変わらず、円（-0.05%）は158.14円で引けた。

レアル（-1.55%）とメキシコペソ（-1.38%）の下落が大きく、豪ドル（-0.58%）が続いた。ブラジル市場は大統領選決選投票の世論調査に注目した（Paraíba Business）。豪州の9月雇用はフルタイムが3万4400人増、パートタイムが7万3700人減であった（BabyPips）。Yahooのレアル系列はブラジル現地の終値に対して約1営業日遅れており（現地10月9日終値の4.9851がYahooでは10月12日に記録、Canal Rural参照）、週間の数値には若干の差が生じ得る。

04

金利と金融政策

中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
FRB	3.75〜4.00%	9月16日 0.25ポイント利上げ（12対0）	10月27〜28日
ECB（預金ファシリティ金利）	2.50%	9月10日 0.25ポイント利上げ	10月29日
日本銀行	1.25%程度	9月18日 0.25ポイント利上げ（7対2）	10月29〜30日
イングランド銀行	3.75%	9月17日 据え置き（6対3、3人が利上げ主張）	11月5日
スイス国立銀行	0%	9月24日 据え置き	12月10日
豪準備銀行	4.60%	9月29日 0.25ポイント利上げ（全会一致）	11月3日
カナダ銀行	2.25%	9月2日 据え置き	10月28日
中国人民銀行（1年 / 5年 LPR）	3.00% / 3.50%	9月20日 据え置き	10月20日（LPR公表）
インド準備銀行	5.50%	10月7日 0.25ポイント利上げ（全会一致）	12月4日
ブラジル中銀（Selic）	13.75%	9月16日 0.25ポイント利下げ	11月4日
メキシコ中銀	6.50%	9月24日 据え置き	11月5日

各中央銀行の公表資料に基づき、発行時に確認。

米国債	週末値	週間変化	年初来
米2年債	4.74%	-6bp	+127bp
米10年債	5.09%	-15bp	+91bp
米30年債	5.43%	-17bp	+59bp
10年実質金利（TIPS）	2.74%	-17bp	+81bp
10年ブレークイーブン・インフレ率	2.35%	+2bp	+10bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
オーストラリア	2026-09	5.28%	+27bp
英国	2026-09	5.24%	+25bp
フランス	2026-09	4.48%	+45bp
イタリア	2026-08	3.99%	+11bp
カナダ	2026-09	3.88%	+21bp
ドイツ	2026-09	3.47%	+28bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
日本	2026-09	3.05%	+11bp

OECD 月次データ（FRED 経由）で、通常1〜2カ月遅れ。水準の確認用で、今週の動きは下の債券 ETF と本文を参照。

債券 ETF	週間	1カ月	年初来
米長期国債（TLT）	+2.7%	-0.6%	-5.0%
米国外国債（BWX、ヘッジなし）	+0.7%	-0.5%	-3.7%
新興国ドル建て債（EMB）	+0.4%	-1.2%	-1.1%
米国外投資適格債（BNDX、ヘッジあり）	+0.3%	+0.6%	-0.4%
米ハイイールド債（HYG）	-0.5%	-1.6%	-0.4%

債券価格と利回りは逆に動くため、ETF の下落は利回りの上昇を意味する。

米国債：10月16日時点（FRED）で2年債利回りは6bp低下の4.74%、10年債は15bp低下の5.09%、30年債は17bp低下の5.43%で、ブルフラット化した。10年実質金利は17bp低下の2.74%、ブレークイーブンは2bp上昇の2.35%であった。MOVE指数は2.63上昇の101.10、VIXは5.15上昇の19.99となった。

その他の国債：OECDの月次データによると、9月の10年債利回りは豪州5.28%、英国5.24%、フランス4.48%、カナダ3.88%、ドイツ3.47%、日本3.05%で、いずれも8月を上回った。イタリアの最新値は8月の3.99%である。これらは月平均の水準であり、今週の変化を示すものではない。債券ETFではTLTが2.65%、BWXが0.66%、EMBが0.38%上昇し、HYGは0.48%下落して、金利とクレジットの動きに差が出た。

中銀：表の11中銀はいずれも今週、金利決定がなかった。次回の決定は2週間後に集中しており、FRBは10月27〜28日、カナダ銀行は10月28日、ECBは10月29日、日銀は10月29〜30日である。

05

商品・暗号資産

週間騰落（ドル建て）

WTI 原油 +10.4% 年初来 +76.6%	ブレント原油 +4.9% 年初来 +80.5%	金 -0.8% 年初来 -3.7%	トウモロコシ -1.1% 年初来 +7.7%	小麦 -1.6% 年初来 +30.3%	銅 -1.7% 年初来 +16.0%
ビットコイン -2.6% 年初来 -6.9%	米天然ガス -3.2% 年初来 -15.5%	イーサリアム -4.5% 年初来 -18.4%	銀 -6.1% 年初来 -18.7%		

資産	直近	週間	1カ月	年初来
WTI 原油	101.41	+10.4%	-1.0%	+76.6%
ブレント原油	109.86	+4.9%	+3.8%	+80.5%
金	4,181.10	-0.8%	-4.7%	-3.7%
トウモロコシ	474.25	-1.1%	-11.2%	+7.7%
小麦	660.50	-1.6%	-9.6%	+30.3%
銅	6.53	-1.7%	+1.5%	+16.0%
ビットコイン	81,500.80	-2.6%	+7.0%	-6.9%
米天然ガス	3.12	-3.2%	+7.8%	-15.5%
イーサリアム	2,419.77	-4.5%	+0.2%	-18.4%
銀	56.99	-6.1%	-11.3%	-18.7%

原油・天然ガス・金属・穀物は期近先物。

原油：WTIは10.41%高の101.41ドル、ブレントは4.91%高の109.86ドルで、要因は今週の要点に記した。米ディーゼル小売価格の平均は金曜に1ガロン6.33ドルで、前年を7割以上上回る（CNBC）。

金属：金は0.83%安の4181.10ドル、銀は6.06%安の57.00ドル、銅は1.68%下落した。銀の下落は主に米CPI公表日の10月14日（同日6.10%安）に生じており、利上げ観測の高まりと整合的である（推測）。

農産物・天然ガス：トウモロコシは1.15%、小麦は1.56%、米天然ガスは3.23%下落し3.116ドルとなった。

暗号資産：ビットコインは2.60%安の8万1501ドル、イーサリアムは4.53%安の2420ドルであった（10月11日終値との比較）。

06

来週の注目材料

日付	イベント	注目点
10/19	中国7〜9月期GDPと9月の経済指標、カナダ9月CPI	中国の4〜6月期GDPは前年比4.3%増で、7〜9月期の市場予想
10/20	中国LPR公表、英国雇用統計、米9月住宅着工、ネットフリックス決算	LPRは16カ月連続で3.00% / 3.50%に据え置かれている。米住
10/21	英国9月CPI、メタ、テスラ、ラムリサーチの決算（引け後）	英国CPIの市場予想は3.4%（8月3.1%）である。イングランド
10/22	韓国銀行の金融政策決定、ウエスタンデジタル決算（引け後）	基準金利は7月と8月の連続利上げで3.00%となっており、市場
10/23	日本9月全国CPI、日米欧10月PMI速報、米ミシガン大学消費者信頼感指数確報	日本のコアCPIは8月に前年比1.7%で、9月の市場予想は2.1%
10/25	ブラジル大統領選決選投票	10月初めの第1回投票後にボベスパ指数とレアルは大幅に上昇

07

データの定義と出典

週間騰落率 = 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 − 1（2026-10-12～2026-10-16）。休場の市場は直近の取引日。

株価指数・為替・商品・暗号資産・債券 ETF は Yahoo!ファイナンス（遅延あり）、米国債利回りは FRED、その他の10年国債利回りは OECD 月次データ（FRED 経由）。

為替は各通貨の対ドルでの騰落に統一し、プラスは通貨高を示す。

市場・個別株：Forklog（10月13日）、Gulf News（10月15日）、QNA（10月15日）、Heygotrade（10月15日）、Investing.com転載のロイター（10月16日）、WHBL転載のロイター（10月16日）、The Week（10月14日）、Paraíba Business（10月13日）、Canal Rural（10月9日）。

経済指標：CNBC：米CPI、BabyPips：米PPI・小売、Trading Economics：米小売、Eurostat 10月16日公表資料の写し、Trading Economics：中国PPI、国家統計局：CPI、BabyPips：豪州雇用、CNBC：原油。

中央銀行：FRB、Admiral Markets：ECB、The Nation：日本銀行、イングランド銀行、Admiral Markets：スイス国立銀行、Admiral Markets：豪準備銀行、カナダ銀行、東方財富：LPR、5paisa：インド準備銀行、DGABC：ブラジル中銀、El CEO：メキシコ中銀、FNNews：韓国銀行。

日程：Thrive in Markets、Investrade（10月16日）、Continuum Economics：カナダCPI（10月16日）。

ドル建てリターンは指数と為替の週間変化率を掛け合わせた推計である。個別株の騰落率はYahoo Financeの未調整終値による。本号は2026年11月2日に遡って発行したものであり、本文はレポート週の金曜の引けまでに公表された情報のみを用いている。

本週報は公開市場データに基づくリサーチ資料であり、一般の読者を対象としている。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言を構成するものではない。データには遅延があり、原資料の数値が優先される。

データ時点 2026-10-16 · 雅虎财经（股指、汇率、商品、加密资产、债券 ETF）；FRED（美债收益率、OECD 各国 10 年期国债收益率）

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w42 · 2026-11-02 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。